

1. 題材名

「こころの花を咲かせよう～イメージをふくらませて～」(全5時間)

A 表現(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ) B 鑑賞(1)ア(ア)イ(ア) [共通事項]

2. 題材について

(1) 生徒の実態

2 学年の生徒は、全体的に明るく活発であり、何事においても真剣に取り組む生徒が多い。美術科の学習でも、課題の内容や方法がわかると、熱心に取り組む姿が見られる。林間学校に関する学習の中で集団の力をつけるとともに、部活動や委員会では中堅学年として3年生を支え、1年生をリードしようとする意識を持って活動する姿が多く見られるようになってきた。

表現の学習では、設定されたテーマを理解し、用具を工夫して用いながら取り組むことができる。鑑賞では、自分の言葉で記述したり、友だちの意見に興味を持って聞いたりすることができる。これらの実態をふまえ、試行錯誤を繰り返しながらよりよい表現を追究する態度を身につけさせたいと考えている。

表現については、静物のデッサンを通して光と影をどのように画面に表すか試行錯誤したり、フリップブックの制作を通して、人物や生き物の一瞬の動きや連続する動きについて注目し、作品に表したりしてきた。

(2) 授業について

この授業は、「感情」から連想した様々な気持ちや言葉を基に花のテーマを発想し、花の形や色の構想を練り、工夫して紙で立体に表す学習活動である。まず「感情」という言葉を基にマッピングに取り組み、生徒自身が知っている言葉を多く引き出す。次に「感情」を形や色で表現する活動に取り組む。ここで得られた気付きと、代表的な花の形を基に、「心の花」を構想し、紙を用いて立体的に表現する。

本題材は、普段生徒が感じ、主に言葉で表現することが多い「感情」を、色や形で表現する活動を設定することで、「造形的な見方・考え方」をはたらかせることができると考える。また、身近な存在である花を取り上げることで、発想を広げやすくする。また、紙で花卉を作ったり、着色したりするなど活動を簡略にすることで、試行錯誤の機会が増えると考えている。

指導にあたっては、感情について様々に連想できるようマッピングに取り組み、周囲の生徒と意見を交換する機会を設定する。また、自分の構想した花に近づけることができるよう、実際に材料を用いて試行錯誤する時間を十分に確保する。

3. 全体研究と関わって

全体研究では、今年度から『新たな世界を主体的に創造する生徒の育成～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』という主題の基、研究を進めている。

これを受けて美術科では、次のような生徒を目指したいと考える。ひとつは、身の回りの形や色彩などの働きに気付いたり、よさや美しさを感じ取ったりすることができるような、造形的な視点をもった生徒である。もうひとつは、表現と鑑賞の指導の関連を図る中で、造形的な視点を基にどのような考え方で思考するかを生徒自身が理解し、自覚できることである。

そのために、題材の指導計画を見直し、造形的な見方・考え方を軸にして、育む資質能力を明らかにすることとする。また、造形的な見方・考え方を働かせることができるような手だてを工夫することとし、今年度は、題材構成とワークシートに重点を置いて取り組む。

4. 学習指導要領上の位置づけ

A 表現

- (1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
- ア 感じとったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- (2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
- ア 発想や構想したことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。
 - (イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
- ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。
 - イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎと自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること
 - イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

5. 題材の目標及び題材の評価規準

(1) 題材の目標

感情を基に「心の花」を発想し、花の色や形の構想を練り、紙で立体的に表現することができる。

(2) 題材の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
夢、想像や感情などの心の世界を表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。	イメージを膨らませて夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出している。	材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表現している。	造形的なよさや美しさ、表したいイメージを基にした主題と創造的な表現の工夫などを感じとり、自分の価値意識を持って味わっている。

6. 題材の指導計画（全5時間）

次	時数	学習活動	評価				評価規準	評価方法
			関	発	技	鑑		
第一 次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の花」をつくることを知る 					<ul style="list-style-type: none"> ・「感情」をテーマに、知っている言葉を書き出すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動観察 ・発言 ・ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ・「感情」をテーマにマッピングに取り組み、知っている言葉を書き出す。周囲の生徒と意見を交換し、さらに「感情」について連想を広げる ・「感情」を色や形で表す 	○	○				
		<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な花の形について知る 					<ul style="list-style-type: none"> ・マッピングを基に、表したい言葉を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ・「心の花」のテーマを決める ・花の形や色について構想を練る ・花卉を切り、形をつくる 	○	○				
第二 次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・紙に着色する 	○		○		<ul style="list-style-type: none"> ・テーマから発想した色で花びらをぬることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動観察 ・作品
		<ul style="list-style-type: none"> ・花びらを貼り、花の形をつくる 	○		◎		<ul style="list-style-type: none"> ・形を工夫しながら制作することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動観察 ・作品
		<ul style="list-style-type: none"> ・制作した作品について振り返る 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達作品を見て、表現の工夫を感じることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動観察 ・発言 ・ワークシート

7. 本時の授業

- (1) 日 時 平成29年10月21日(土) 10:10~11:00
 (2) 対 象 2年2組生徒 男子 20名, 女子 19名 計39名
 (3) ねらい
 テーマを決め、花の色や形について構成を練ることができる。
 (4) 本時の展開

時間	○学習活動 ・活動の内容, 指導のポイント及び留意点	評価				指導上の留意点
		関	発	創	鑑	
導入 5分	○本時の学習内容について知る ・前時までの学習を基に, 何の花を作るか テーマを決めること ・テーマを基に, 花の色や形について構想 を練り, 花びらから作り始めること ○本時のねらいを知る。 ・テーマを決め, 花の色や形を考える	○				・本時の学習内容やねらいにつ いて簡潔に伝えることで, 生 徒自身が理解して取り組むこ とができるようにする
展開 40分	○代表的な花の形について知る ○「心の花」のテーマを決める ○花の形や色について構想を練る ○花卉を切り, 形をつくる	○ ○ ○	 ○	 ◎	 ◎	・マッピングで書き出した言葉 を基に, 表したい花のテーマ を決めることができるように する ・代表的な花の形や, 前時の学 習(感情を色や形で表す)を 基に, 発想することができる ようにする。 ・平面だけでなく実際に紙を切 って立体で表すことで, イメ ージをつかみやすくするとと もに, 着色する前の段階で, 形について試行錯誤できるよ うにする。
まとめ 5分	○まとめ ・数人の生徒に感想を聞き, 学習を振り返 る ・ワークシートの提出	○			○	・「○○な花」を構想する中で 考えたことや気づいたことな どについて全体で共有できる ようにする

(5) 本時で期待する生徒の姿

- ・マッピングを基に, 表したい花のテーマを決めることができる
- ・「心の花」について具体的に発想し, それを基に色や形について構想を練ることができる

(6) 本時で期待する生徒の姿を引き出すための手だて

- ・前時までの学習内容を振り返りやすいように, ワークシートの構成を工夫する
- ・自由に発想したり, 構想を練ったりすることができるように, 活動時間を十分に設定する

8. 育てたい「4つの力」

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
発揮する力	想像の世界を表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。	イメージを膨らませて夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出している。	表現方法の特性を考えながら、見通しをもって表現している。	造形的なよさや美しさ、表したいイメージを基にした主題と創造的な表現の工夫などを感じとり、自分の価値観をもって味わっている。
フレーズ	感情に注目する	「心の花」を考える	色や形の工夫	表現の意図を感じる